

[監査論 2 | 論文本試験 合格者答案 抜粋]

偏差値 56 ・ 偏差値 52 ・ 偏差値 40 答案
(科目合格レベル)

第1問	素点	偏差値	問別得点 (調整後)	
#1-A	20/50	56.6	28.3/50	短路上級生 5→8
#1-B	17.5/50	52.6	26.3/50	1.5年コ-2 5→8
#1-C	10/50	40.2	20.1/50	短路上級生 5→8

第2問	素点	偏差値	問別得点 (調整後)	
#2-A	21	56.9	28.45/50	論文上級生
#2-B	18	51.9	25.95/50	1.5年コ-2 5→8
#2-C	11	40.5	20.25/50	論文上級生



短答上級生

5→8

#1-A 1 枚目

第1問 答案用紙<1>

(監査論)

問別得点

(調整後)

素点

偏差値

20/50

56.6

28.3/50

問題 1

問 1

プロセス	決定プロセスの説明
1	監査人は、監査役等とコミュニケーションを図る。具体的には、シトリオの減損の状況、減損の認識、特にその見積り方法、そして内部統制を含む企業及び企業環境、経営環境の变化の時期や規模の不確実性、減損の認識時期、金額についてコミュニケーションを行う。
2	監査役等とコミュニケーションを図り、各事項の中から、監査と関係が深い監査人が特に注意を払った事項を決定する。具体的に見積りの不確実性が高いと識別された減損の認識にかかわる見積り並びに、経営者の重要な判断を行う見財務諸表に関連する各事項について、特に注意を払った事項を決定する。
3	監査人が特に注意を払った事項として決定した事項の中から更に、当年度の見財務諸表の監査において職業的専門家として特に重要なものと判断した事項を監査上の主要な検討事項として決定する。具体的には、監査人は見積りの不確実性が高い減損の認識にかかわる経営者の重要な判断を行う当該事項を職業的専門家として特に重要な検討事項と決定する。

問 2

企業に関する公表情報の提供に関する責任は、見財務諸表作成責任を有する経営者にあり、監査上の主要な検討事項は、監査の内容に関する月報を提供するものであるため、通常当該公表情報の不足を危惧するものではない。しかし、当該事項を監査上の主要な検討事項として決定する理由の表明のため、法令に規定されない限り、監査人は未公表情報を記載する場合がある。

問 3

シトリオの情報が、見財務諸表利用者に与える財務諸表理解の基礎として重要な情報となる場合、当該事項を見財務諸表に記載するよう、監査人は指導的機能と発揮して経営者に要請する。そして当該事項について注意を喚起し利用者に活用するため、当該事項として監査報告書に記載する。



総合級生
5→8

#1-A 2枚目

第1問 答案用紙<2>
(監査論)

問別得点

素点 偏差値 (調整後)
20/50 56.6 28.3/50

問題 2

問 1

監査人の責任は、経営層の作成した財務諸表に対し意見を表明することである。特に監査上の主要な不適合事項は、当年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門知識と経験に基づいて重要と判断した事項という。監査人が意見を表明を行う上で、監査上の主要な不適合事項は、意見表明による保証の材料と見なすものであり、行われる監査についての情報提供である。しかし意見表明のうえで、補足的な意見として、利用者に、経済的意見決定に資する重要な情報を提供している。

問 2

「監査意見の根拠」区分の記載事項：エネルギー事業部門の減損損失に関する会計処理については、XX社の重要な虚偽表示及び是れに関する事項に関する重要な虚偽表示の表示が財務諸表に及ぼす影響の範囲は重要かつ広範囲に及ぶため、除外事項に対する限定意見とした。

「監査上の主要な検討事項」区分の記載事項：監査上の主要な不適合事項は個別に意見を表明するものではない。当監査人は、除外事項付意見に記されている事項を除き、監査報告書において報告すべき監査上の主要な不適合事項はないと判断している。



1.5年コ-2
5→8

井 1-B 1 枚目

第 1 問 答案用紙<1>
(監 査 論)

問別得点

(調整後)

素点

偏差値

17.5/50

52.6

26.3/50

問題 1

問 1

プロセス	決定プロセスの説明
1	監査人は、条件減損の判断は、経営環境の変化による将来事象の発生可能性が高い、見値の不確実性が高い減損の認識時期等は、経営者の判断に委ねるもの、監査人も重要な判断を要するもの、この点で、監査役等とコミュニケーションを行う。
2	プロセス(2)監査役等とコミュニケーションを行うため、監査人は監査実施に当たり、条件減損の認識の判断を含め、監査の実施上特に注意を要する事項を決定する。
3	プロセス(3)において決定された事項のうち、財務諸表利用者にとって特に情報価値の高いと思われる条件減損の認識について監査上の主要な検討事項として決定する。

問 2

監査上の主要な検討事項は、監査のプロセスを透明化し、より高い信頼性となる監査報告書の情報価値を高めることを目的に存在している。監査上の主要な検討事項は、未公表の情報と公表情報との違いを明らかにし、公表情報に財務諸表利用者のニーズにかなう場合、監査上の主要な検討事項として記載される。監査人の提供が情報の記載範囲は未公表の情報と公表情報とを区別する。
--

問 3

監査人は、財務諸表の情報が財務諸表利用者の理解に役立つよう、経営者に伝え、監査上の主要な検討事項に記載した旨を伝えるとともに、経営者にも財務諸表について注記を行うことを要請するに配慮している。
--



0 3 0 6 0 2

1.5年コ-2

5→8

1-B 2 枚目

第 1 問 答案用紙<2>

(監 査 論)

問別得点

(調整後)

問題 2

問 1

素点
17.5/50偏差値
52.6

26.3/50

監査上の主要な検討事項は、監査人が監査標準とコミュニケーションを行った事項の中から、監査を実施する上で、監査人が特に注意を払った事項として決定したものであり、監査にかかっているプロセスを透明化し、財務諸表利用者の監査の信頼性を高めるための情報提供の性質を有する。一方で監査意見は、監査の本質的な役割である財務諸表の信頼性の担保の保証の枠組みの中で行われるべきものである。このような性質の差により、監査上の主要な検討事項の報告は、監査意見と自体と明確に区別されている必要があり、例えば「除外事項に該当する事項」を監査上の主要な検討事項の区分に記載することは認められない。

問 2

「監査意見の根拠」区分の記載事項：「工本費」事業部門の減損損失に関する会計処理により、繰引前当期純利益はXX百万円額に減少している。回収可能額算定に用いた主要な前提条件の注記も不適切である。

「監査上の主要な検討事項」区分の記載事項：当監査人は、「除外事項付意見」の根拠として記載されている事項を除き、監査報告書において報告すべき監査上の主要な検討事項はないと判断している。



井 1-C 1枚目

第1問 答案用紙<1>
(監査論)

問別得点
(調整後)
20.1/50

素点 偏差値
10/50 40.2

問題 1

問 1

プロセス	決定プロセスの説明
1	監査人は、リスクアプローチに基づいて行われた監査において、監査人が特に注意を払った事項を考慮するために、十分かつ適切な監査証拠を入手する。
2	監査人は、監査人が特に注意を払った事項に当たって考慮すべき項目である、特別な検討を必要とするリスクや重要な虚偽表示リスク、監査役等とコミュニケーションを行った事項が不確実性の高い会計上の見積もりなどを考慮する。
3	監査人は、プロセス1.2で行った事項を考慮して、監査人が特に注意を払ったものを決定し、その中から当年度の財務諸表監査において特に重要であると判断する事項を決定する。

問 2

監査上の主要な検討事項として監査人が提供する情報の記載範囲は、企業の秘密が多く含まれる未公開情報を含む、より広い範囲の情報である。これは、例外はあるがどのような性質の情報であっても監査上の主要な検討事項として開示するのが財務諸表利用者の監査情報の充実に資するからである。

問 3

監査人は、未公開情報に関して監査上の主要な検討事項として三ナリオBを記載するために、経営者に支拂って三ナリオBの詳細な情報を財務諸表等に記載することを求める手段を実行することが適当である。



井 1-C 2 枚目

第 1 問 答案用紙<2>

(監 査 論)

問題 2

問 1

素点
10/50偏差値
40.2問別得点
(調整後)
20.1/50

監査人の目的は、財務諸表が社会的に信頼されるために、財務諸表に対して監査意見を表明することである。対して監査上の主要な検討事項は、実施した監査に関する透明性を高めることにより、監査報告書の情報伝達手段としての価値を向上させることにある。このように、監査意見は財務諸表監査において信頼性を保証する上で不可欠であり、基礎の根幹をなすものがある。反対に、監査上の主要な検討事項は、財務諸表監査において、財務諸表の信頼性や情報価値をより一層高めるものとして監査意見を支える役割を果たすものである。

問 2

「監査意見の根拠」区分の記載事項：「エネルギー事業部門の減損損失に関する会計処理には、××百万円の重要な虚偽表示及び定性的な注記事項に関する重要な虚偽表示がある」という意見表明の理由を記載する。

「監査上の主要な検討事項」区分の記載事項：「事業計画、ミナリオBが資産の減損に係る監査判断に重要な影響を与えている」という監査上の主要な検討事項に決定した理由を記載する。

第2問 答案用紙<1>
(監査論)井2-A1 枚目 問別得点
素点 偏差値 (調整後)
21 56.9 28.45/50

問題 1

甲社、A社及びB社の3社が後引前利益の構成比率が15%を超えているため、グループに対する個別の財務的重要性を有している。また、その他の会社は、グループ財務諸表に係る特別な検討を必要とするリスクが含まれる可能性もないと判断されたため、監査人Xが甲社、A社及びB社のみを重要な構成単位と識別した。

問題 2

監査人Xは、構成単位の財務諸表、監査又はレビューを実施する場合においても、グループ財務諸表全体として重要な虚偽表示がないことについて合理的な保証を得る必要がある。したがって、構成単位の重要性の基準値は、一般に、グループ財務諸表における修正の虚偽表示と未発見の虚偽表示の合計が、グループ財務諸表全体としての重要性の基準値を上回る可能性を許容可能な低い水準に抑えるために、グループ財務諸表全体としての重要性の基準値よりも低く設定されるべきである。

第2問 答案用紙<2>
(監査論)

井2-A 2枚目

素点 偏差値

問別得点
(調整後)

2 | 56.9 28.45/50

問題 3

問 1

現地の監査人である監査人Yの監査業務における信頼性の程度がある。

問 2

監査人Yが、ケルア監査チームと協力することが可能であるかどうか、ケル
ア財務諸表の監査に関連する職業倫理を理解し、遵守しているかどうか、
不正等を見つけた場合に適切にケルア監査チームに報告することについて、及び
報告の様式等について、監査人Yとコミュニケーションを行った。

問題 4

アサーション: 実在性

監査手続: 貸付金の取引に関する証ひょう書類等の閲覧。

アサーション: 表示の妥当性

監査手続: 貸付金を行った理由についての経営者への質問。

アサーション: 評価の妥当性

監査手続: 貸付金の回収可能性についての検討。

アサーション: 網羅性

監査手続: 貸付金の取引に関する証ひょう書類等の閲覧。



0 3 0 7 0 1

1.5年コ-2
5→8第2問 答案用紙<1>
(監査論)

#2-B 1枚目

素点 18 偏差値 51.9 問別得点 (調整後) 25.95/50

問題 1

甲社、A社及びB社は売上高や税引前利益が順に高く、重要性の基準値の指標である税引前利益の構成比率が15%超である。また、甲社の税引前利益の構成比率の合計が88%であり、%を超えているため、甲社、A社及びB社を重要な構成単位と識別した。

問題 2

構成単位の重要性の基準値は、グループ財務諸表全体としての重要性の基準値を上回る可能性を許容可能な低い水準に抑えるために、グループ財務諸表全体としての重要性の基準値よりも低く決定すべきである。



1.5年コース
5→8

第2問 答案用紙<2>
(監査論)

井2-B 2枚目

素点 偏差値 問別得点
(調整後)
18 51.9 25.95/50

問題 3

問 1

C社の財務報告に係る内部統制の有効性

問 2

過去にいくつかの重大な誤謬が発見されているため、財務報告に係る内部統制が有効でないと考えられるため、内部統制に依拠せず十分に適切な監査証拠を入手するための実地テストとして監査人とITコンサルタントを行う。

問題 4

アサーション:	実在性	
監査手続:	貸付先の確認	
アサーション:	公平性の客観性	
監査手続:	貸付先の支払能力や意思の検討	
アサーション:	糸図羅性	
監査手続:	明細表との実合	
アサーション:	権利と義務の帰属	
監査手続:	明細表との実合、貸付先の確認	



0 3 0 7 0 1

論文式監査論

第2問 答案用紙<1>
(監査論)

井 2-C 1 枚目

素点 偏差値 (調整後)

11 40.5

20.25/50

問題 1

財務諸表監査の実施には、時間と人員といった監査資源の限界がある。そのため、監査人はすべての構成単位に同等の監査手続を行うことができない。そこで、重要な構成単位と決定すること、監査を効果的に実施することが出来る。電機A社とB社の財務諸表の重要性は、取引前利益の構成比率により判断されており、その重要性の基準値は5%を超えているのは電機A社とB社である。したがって、監査人はB社を重要な構成単位としている。

問題 2

重要性の基準値を決定する場合、監査人は、まず最初に指標を選択し、その指標に対して特定の割合を適用することとなる。この場合、被監査会社毎にどのような指標を重視しているか、またどのような指標が業績評価に用いられているかは異なるため、監査人は職業的専門家として、被監査会社の状況を考慮した上で判断することとなる。また、重要性の基準値を設定すること、限られた監査資源のもと、監査人が重視すべき項目と実施可能な項目の種類及び内容が明確となり、監査が効果的かつ効率的に行われ、監査人が重要なリスクを把握してリスクを軽減することと考える。



0 3 0 7 0 2

井 2-C 2 枚目

第 2 問 答案用紙<2>

(監 査 論)

素点 偏差値 問別得点
11 40.5 (調整後)
20.25/50

問題 3

問 1

C社の内部統制の整備状況と運用状況並びにその有効性

問 2

C社の内部統制の整備状況の運用は、C社の経営者に委任されている。しかし、その整備状況の運用は適正に行われておらず、内部統制に関連する重要な不備が存在している等について監査人とコミュニケーションを行う。また、内部統制の整備状況の運用によって、経営者に不正又は不正の疑いがあるかどうかについてもコミュニケーションが行われる。

問題 4

アサーション：実在性

監査手続：当該貸付金が実際に行われたものであるかについて、貸付けた相手方に確認する。

アサーション：評価の妥当性

監査手続：貸付引当金の計上の必要性並びにその適切性について、相手方の返済能力を確認する。

アサーション：期間帰属の適正性

監査手続：全社処理が適切な期間に行われているかどうかにつき、現金の収支と照らし合わせる。

アサーション：目的整合性

監査手続：貸付けた金額がその目的が適切であるかにつき、同業他社と比較を行う。